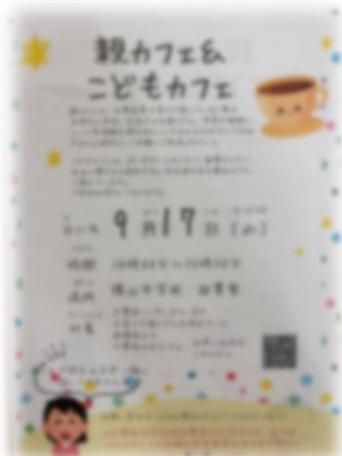


## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 新たな不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A・B中学校)



A中学校では、不登校経験のある子供の居場所、親の居場所という観点から「親カフェ・子カフェ」という取組を年度当初から始めた。不登校対応巡回教員が巡回している中学校5校の保護者と子供に参加を促し、日常の悩みや進路に関すること、医療に関することなどの悩みを共有したり、解決したりする場として使われている。参加した生徒の活動場所を確保するために、校内で各種会議が予定され、他の生徒が下校している水曜日に開催している。親カフェ・子カフェを運営するため、近隣の子育て支援施設の職員に協力を得た。複数の学校の生徒にとって新たな居場所になることを期待している。



B中学校では、修学旅行前のスローガンを作成して掲示する取組を行った。第3学年の教室の前に作成したスローガンを掲示し、修学旅行に向けて前向きに事前学習に取り組む雰囲気を作ることができた。その結果、欠席がちな生徒も修学旅行に参加することができた。

#### 【取組2】(C中学校)

C中学校では、生徒の委員会活動が活発で年度後半の生徒会役員の選出や各委員会の演説をオンラインで配信した。オンラインで演説を聞いた生徒の中には、全校集会等の集団の場が苦手な生徒もいるため、生徒の状況に応じた支援につながった。



#### 【取組3】(全巡回担当校)

東京都教育委員会から共有された研修キットを使って各巡回担当校で不登校に関する校内研修を実施した。年間を通して、校内研修の機会を複数回確保することが難しいので、日常的なOJTを行い、不登校に対する理解を深めることを目指している。また、不登校対応巡回教員の立場を生かして各巡回校の教職員とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築に努め、生徒一人一人の状況に応じた不登校支援への理解を深めたい。

## 多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

### 支援会議（A中学校）

支援会議は、校長、副校長、生活指導主任、学年主任、不登校対応巡回教員、特別支援教育コーディネーター、SSW等が参加している。支援会議後、各担当者が共通理解の下、校内別室の利用やオンライン授業の実施、必要に応じて家庭訪問など、生徒一人一人の状況に応じて支援している。

### アウトリーチによる支援（E中学校）

E中学校では当該生徒の精神的負担にならないように2週間に1回程度の家庭訪問を実施している。短時間の面会時間であったが、少しずつ関係を構築することができた。家庭訪問だけではなく、オンラインで面談を希望する場合にはオンライン会議を活用して、継続的な支援を行った。

### 校内別室における支援（D中学校）



D中学校では畑を利用して、校内別室を利用する生徒の学びの一環として農作業の体験活動を実施している。農作業を通して、生徒が互いにコミュニケーションを深めたり、信頼関係を構築したりするなど、効果的な取組である。雑草を抜く等の作業の日も多いが、収穫の際には大きな達成感を得ることができる。他の巡回担当校でも体験活動等を通して、達成感を味わうことができるように支援する手だてを検討したい。

### デジタル機器を活用した支援（全巡回担当校）

不登校対応巡回教員が全巡回担当校で支援している生徒を対象に平日の午前10時からオンライン朝学活を行って、コミュニケーションを図っている。多い時には10人以上が参加し、取り組んだ学習などの報告を行っている。



### 関係機関との連携（E中学校）

定期的に近隣の子育て支援施設を活用して軽運動等を実施している。運動が苦手な生徒が多いが、軽運動の後には、達成感を感じている表情をしていた。



## 成果

不登校対応巡回教員の役割を各校に周知し、教職員と連携して不登校生徒への支援の充実を図ることができた。全ての生徒にとって相談しやすい環境作りを整えていく。

## 課題

不登校が長期化している生徒への支援として、進路相談等を行う環境を整えていくことが課題である。